

2021 年度

# 環境経営レポート

自 2021 年 06 月 01 日

至 2022 年 05 月 31 日

## [ 目 次 ]

1	環境経営方針	…P. 1
2	組織・事業の概要	…P. 2
3	認証登録の対象範囲	…P. 2
4	環境マネジメント実施体制	…P. 3
5	環境経営目標	…P. 4～5
6	環境経営計画、取組結果、評価、次年度の 環境経営目標及び環境経営計画	…P. 6～9
7	自然共生活動	…P. 10～12
8	環境関連法規等の遵守評価結果、違反・訴訟の有無	…P. 12
9	代表者による全体の評価と見直し指示	…P. 13

発行日：2022 年 06 月 25 日

日本ニューロン株式会社



認証番号 0010729

# 1. 環境経営方針

社 是

～Be Comfortable!～

～こころよく、こちよく!～

## 環境経営方針

日本ニューロン株式会社は、身近なライフラインからエネルギー開発、宇宙産業にいたるまでのあらゆるエンジニアリングにおいて、パイプラインをジョイントする役割をもつ「伸縮管」を創造しております。

当社の創造活動が地球環境に及ぼす影響を認識し、エコアクション 21 を取り入れた環境マネジメントシステムを確立し、全社員で運用、改善向上を継続的に進めていきます。

1. 環境に経営を位置付けて環境経営推進をめざし、経営における課題とチャンス  
を明確にして環境への取り組みに反映させます。
2. 事業活動に伴う環境側面を適切に管理し、地球環境への負荷の低減と汚染  
の予防に取り組みます。
3. 低炭素社会、循環型社会、自然共生社会づくりに役立つ、製品・技術及び  
工法の開発に取り組みます。またグリーン調達に努めます。
4. 環境マネジメントシステムを定期的に見直し、有効性を高め、継続的な改善に  
努めます。
5. 環境関連法規制及び地域並びにお客様の環境関連要求事項を遵守します。
6. 環境経営レポートを通じて、環境活動の状況を社内外に公開します。
7. 本方針を全従業員に周知します。
8. SDGs を環境経営に活かして推進いたします。

制 定 日	2011 年 11 月 01 日
第一回改定日	2019 年 6 月 15 日
第二回改定日	2021 年 6 月 28 日

日本ニューロン株式会社

代表取締役 岩本 泰一

## 2. 組織・事業の概要

(1) 事業者名及び代表者名

日本ニューロン株式会社

代表取締役 岩本 泰一

(2) 事業所名及び所在地

本 社 〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台3丁目2番地18

東京オフィス 〒141-0022 東京都品川区東五反田1丁目10-7

(3) EMS管理責任者及び担当者の氏名と連絡先

責任者： 正 専務取締役 岩本 康浩

副 総務部部长 橋本 茂美

担当者： 総務部 山本 萌香

TEL： 0774-95-3900 FAX:0774-95-3905

ホームページ <https://www.neuron.ne.jp>

E-mail： メールアドレス info@neuron.ne.jp

(4) 事業内容

・各種伸縮管継手、熱交換器用厚肉ベローズ、フレキシブルチューブ、ダンパ、圧力容器の設計製作

・配管応力解析及び金属成分分析

(5) 事業規模等

売上金額 1,718 百万円／年(2021 年度)

資本金 30 百万円

従業員数 50 名

工場延面積 5,152 m<sup>2</sup>

敷地面積 10,850 m<sup>2</sup>

(6) 事業年度 6 月 01 日～5 月 31 日

## 3. 認証登録の対象組織・活動

登録組織名	日本ニューロン株式会社
対象事業活動	伸縮管継手等の設計製作,配管応力解析及び金属成分分析
適用対象外組織	なし

環境経営レポートの対象期間・発行日

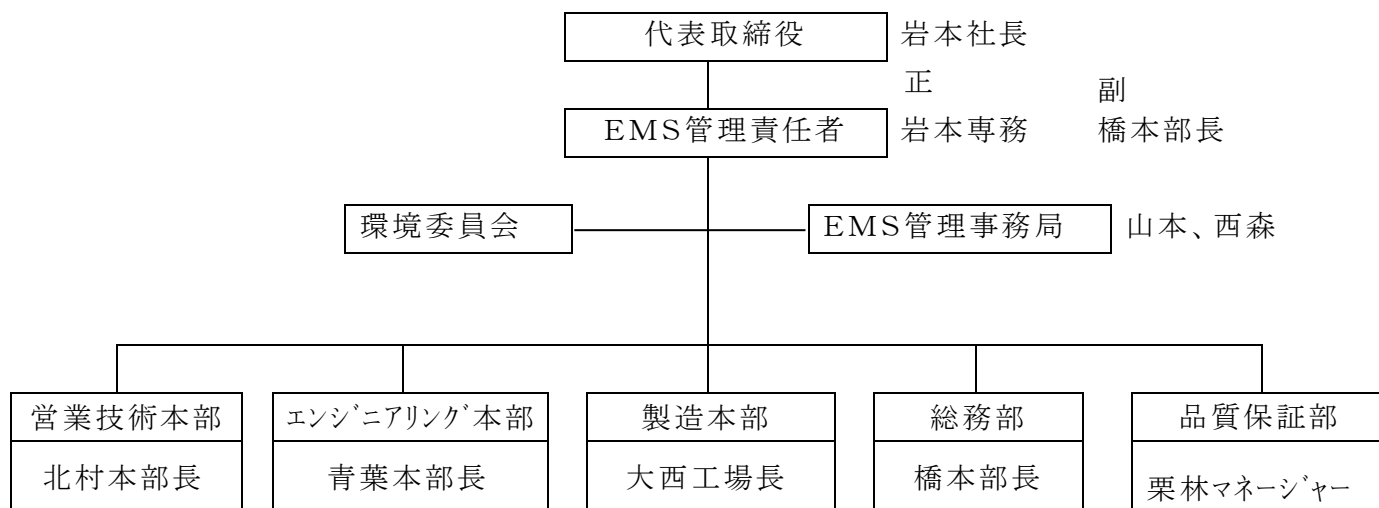
対象期間:2021年06月01日～2022年05月31日

発行日:2022年06月25日

次年度発行日:2023年07月01日

## 4. 環境マネジメント実施体制

組織図



(東京オフィス含む)

役割分担表

代表取締役	環境マネジメントシステム(EMS)の総括責任 環境経営方針の制定及び周知 環境関連法規制等の周知及び管理 EMSに必要な経営資源の準備 EMS管理責任者の任命 環境経営目標及び環境活動計画の承認 EMSの定期的評価・見直し・指示の実施 環境経営レポートの承認
EMS管理責任者	環境マネジメントシステム(EMS)の構築・運用 EMSを構築・実施し、評価し、代表者に報告 EMSに関する教育・訓練の実施 環境負荷(エネルギー・廃棄物等)データの管理 EMSに関する文書・記録の作成及び管理 環境コミュニケーション 環境経営レポートの作成、公開
EMS管理事務局	EMS管理責任者の補佐
営業技術本部	受注活動 主として、受注担当
エンジニアリング本部	設計開発活動 主として、設計・開発担当
製造本部	製造活動 主として、設備・材料・製造プロセス担当
総務部	総務・外注管理活動 主として、総務機能・外注管理担当
品質保証部	品質管理・品質保証活動 主として、品質管理担当

## 5. 中期環境経営目標

事業活動において、次の重点課題に関する目標を設定し取組みます。

- ① 電力消費による CO2 排出量の削減
- ② 化石燃料消費による CO2 排出量の削減
- ③ 全 CO2 排出量の削減
- ④ 水道水使用量の節減
- ⑤ 廃棄物の分別、減量、再使用、再生利用の推進
- ⑥ 環境に配慮した事業活動の推進
- ⑦ 業務上必要な調達品のグリーン購入の推進
- ⑧ 化学物質の適正管理
- ⑨ 自然共生活動による生態系保全



関西文化学術研究都市内 本社

## 中期環境経営目標

環境経営方針の実現を目指し、基準年の実績を考慮して、環境経営目標を策定しました。

2021年度～2023年度目標

計画日：2021年6月1日

基準年度：2020年度（2020年6月1日～2021年5月31日）

中期目標策定方針：基準年度実績に比べ 2023年度に 何%削減/増加 ※7.売上は前年度が基準

項目	1.電力	2.燃料	4.水	5.産廃	6.一般廃	7.売上	8.研究	9.提案	10.G購入
目標値	△3%	△3%	△3%	△3%	△3%	+3%	+3%	+3%	+3%
環境経営目標 NO 管理指標	基準年 2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		
	実績		目標	実績	目標	実績	目標	実績	
電力消費量 kWh	264,608		261,962	263,266	259,316		256,670		
1.電力のCO <sub>2</sub> 排出量削減 電力による→ Kg-CO <sub>2</sub>	140,742		139,626	140,027	138,215		136,805		
軽油使用量 ℓ	2,793		2,699	2,854	2,737		2,709		
ガソリン使用量 ℓ	2,597		2,571	2,353	2,545		2,519		
灯油使用量 ℓ	2,062		2,041	2,311	2,021		2,000		
都市ガス使用量 m <sup>3</sup>	228		226	230	223		221		
プロパンガス m <sup>3</sup>	14		14	11	14		14		
2.化石燃料のCO <sub>2</sub> 排出量削減 化石燃料による Kg-CO <sub>2</sub>	18,969		18,779	19,212	18,590		18,400		
3.1 全CO <sub>2</sub> 排出量 Kg-CO <sub>2</sub>	159,711		158,405	159,239	156,805		155,205		
3.2 全CO <sub>2</sub> 量/売上 百万円当	95		96	93	93		92		
4.総排水量（水使用量）の削減 水道水使用量 m <sup>3</sup>	2,554		2,528	2,076	2,503		2,477		
5.1 産業廃棄物削減 （木くず、混合産廃） kg	1,646		1630	1,560	1,613		1,597		
5.2 一般廃棄物削減 可燃ごみ kg	960		950	960	941		931		
6.1 事業活動での環境配慮 伸縮管継手等納入金額 百万円	1,680		1,697	1,718	1,714		1,730		
6.2 事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了件数	3		3	4	3		3		
6.3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	233		235	199	238		240		
7.グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	21		21	22	21		22		
8.化学物質の管理	規定遵守		規定遵守	規定遵守	規定遵守		規定遵守		
9.自然共生活動 ビオトープ等維持	維持		維持	維持	維持		維持		

備考※（電力消費量は東京オフィス含む）電力のCO<sub>2</sub>排出係数

：0.441 kg-CO<sub>2</sub>/kWh（東電2019年度調整後の係数）

：0.533 kg-CO<sub>2</sub>/kWh（テプコカスタマーサービス㈱2019年度調整後の係数）

3.全CO<sub>2</sub>量/売上 百万円当の目標値は前年売上対比。

8.化学物質（塗料・溶剤等）の管理は、法規制も含め社内規定に従い実施する。

9.自然共生活動は、「5 自然共生活動」参照

## 6. 環境活動計画、取組結果、評価、次年度の取組内容

2021年度 環境活動計画／実績表(6月～翌5月) ※2021年度より基準年を前年とする。	
	評価:2022年06月15日
達成状況評価:○目標達成 △目標未達で基準値同等 □ほぼ目標値 ×目標未達で基準値よりも悪い	

環境経営目標 NO 管理指標	指標の 区分	指標の値	単位	達成 状況	結果の評価・考察
1. 電力のCO <sub>2</sub> 排出量の削減	基準値 目標値 実績値	140,742 139,626 140,027	kg- CO <sub>2</sub>	△	去年に引き続き、コロナ禍での事業体制が電力消費を増加させた。(換気をしながらの空調稼働) 基準年比:0.2%増
2. 1化石燃料のCO <sub>2</sub> 排出量の削減	基準値 目標値 実績値	18,971 18,781 19,212	kg- CO <sub>2</sub>	△	昨年に比べ、現地作業や厳寒の日が多く、ガソリン以外が増加。
3. 1全CO <sub>2</sub> 排出量	基準値 目標値 実績値	159,711 158,407 159,239	kg- CO <sub>2</sub>	×	基準年比:0.4%増 電力消費量増加のため目標未達。 <b>売上増加により今後も増加が懸念される</b>
3. 2全CO <sub>2</sub> 排出量/ 百万円当たり	基準値 目標値 実績値	95 93 93	kg-CO 2/ 百万円	○	※目標値 前年対比とする。 売上アップ1.2%に対して値をキープ 評価できる。
年度の売上	基準値 目標値 実績値	1,680 1,697 1,718	百万円	○	基準年比:2.2%増 目標年比:1.2%増
4. 水使用量の削減	基準値 目標値 実績値	2,554 2,528 2,076	m <sup>3</sup>	○	水道事業の売り上げ減少と比例し、使用量も減少。
5. 1産業廃棄物の削減 (木くず、混合産廃)	基準値 目標値 実績値	1,646 1,630 1,560	kg	○	納入業者による引取を継続 昨年に引き続き、連続での削減で 目標達成。
5. 2一般廃棄物の削減 可燃ごみ(紙ごみ)	基準値 目標値 実績値	960 950 960	kg	△	マニフェストに基づき適正な廃棄を遂行。 売上を考慮すると評価できる
6. 1事業活動での環境配慮 (納入金額 百万円)	基準値 目標値 実績値	1,680 1,697 1,718	百万円	○	基準値、目標値共に目標達成。
6. 2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了 件数	基準値 目標値 実績値	3 3 4	件	○	特許申請や、新設備の設計開発なども評価 できる
6. 3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	基準値 目標値 実績値	256 258 199	件	○	各部門ISO目標に掲げているが目標未達。 再度発案への個人の意識が必要。
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目 数	基準値 目標値 実績値	21 21 22	品目	○	コストとのバランスを配慮し、積極的に購入 するように意識継続。
8. 化学物質の管理 社内規定に従い実施	規定遵守				
9. 自然共生活動 ビオトープ等維持	けいはんな記念公園様指導のもと、メンテナンスを継続 また、多様な生物の発見もあり、自然共生を意識したビオトープ を維持できている。				

## 2021年 達成手段・取組評価

	達成手段	取組評価 (○・×)
1. 電力のCO2排出量の削減	休憩時間の消灯（事務所、工場） 就業時間終了後の待機電力使用など 電力使用方法を工夫。	○ ○
2. 1化石燃料のCO2排出量の削減	車の燃料に関しては用途に合った車の使用。 エコな運転を心掛ける。	○
3. 1全CO2排出量	工場の空調設備に加えて屋根への遮熱シートや遮熱塗料塗布を行う。	○ 使用電力を増大させずに暑さ対策を行い効果があった。
3. 2全CO2排出量／ 百万円当たり		○
年度の売上	1,718百万円	○
4. 水使用量の削減	適正な水道使用を意識 こまめな蛇口の開閉	○ ○
5. 1産業廃棄物の削減 (木くず、混合産廃)	廃棄分別表の掲示。 分別・リユースの徹底。	○ ○
5. 2一般廃棄物の削減 可燃ごみ（紙ごみ）	データ化を推進し紙媒体削減を継続。 廃棄分別による削減継続	○ ○
6. 1 事業活動での環境配慮 (納入金額 百万円)	研究開発案件が実案件となったのも売上増加の要因。	○
6. 2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の 完了件数	新たな材料の加工技術開発や 評価事業などに取り組んだ。	○
6. 3事業活動での環境配慮 改善提案件数	改善提案1人月一件を目標とする。	△
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	リサイクル・エコ製品を積極的に購入。	○
8. 化学物質の管理 社内規定に従い実施	規定遵守	
9. 自然共生活動 ビオトープ等維持	ビオトープにかかる老朽化した橋を社内メンバーでリメイクを行った。また、けいはんな記念公園様の指導の元、水質改善が進み、きれいな水になり、生き物の生態系維持も継続している。	



## 次年度(2022年度)の環境経営目標・環境経営計画

環境経営目標	指標の区分	指標の値	単位
NO 管理指標			
1. 電力のCO <sub>2</sub> 排出量の削減	基準値	140,742	Kg-CO <sub>2</sub>
	目標値	138,215	
2. 1化石燃料のCO <sub>2</sub> 排出量の削減	基準値	18,969	Kg-CO <sub>2</sub>
	目標値	18,590	
3. 1全CO <sub>2</sub> 排出量	基準値	159,711	Kg-CO <sub>2</sub>
	目標値	156,805	
3. 2全CO <sub>2</sub> 排出量／ 百万円当たり	基準値	95	Kg-CO <sub>2</sub> /百万円
	目標値	93	
年度の売上	基準値	1,680	百万円
	目標値	1,714	
4. 水使用量の削減	基準値	2,554	m <sup>2</sup>
	目標値	2,503	
5. 1産業廃棄物の削減 (木くず、混合産廃)	基準値	1,646	kg
	目標値	1,613	
5. 2一般廃棄物の削減 可燃ごみ(紙ごみ)	基準値	960	kg
	目標値	941	
6. 1 事業活動での環境配慮 (納入金額 百万円)	基準値	1,680	百万円
	目標値	1,714	
6. 2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の完了件数	基準値	3	件
	目標値	3	
6. 3事業活動での環境配慮 改善提案件数	基準値	233	件
	目標値	238	
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	基準値	21	品目
	目標値	21	
8. 化学物質の管理 社内規定に従い実施	規定遵守		
9. 自然共生活動 ビオトープ等維持	年間を通じて、けいはんな記念公園に改修メンテナンスを依頼、継続中。絶滅危惧種のバツタや貴重な生物の生息が確認できた。池の水質も改良され、きれいな水になってきている。今後、自社でのメンテナンスも含めビオトープの管理を行っていきます。		

## 次年度（2022年度）の達成手段目標

	継続達成手段	新追加 達成手段
1. 電力のCO <sub>2</sub> 排出量の削減	休憩時間の消灯（事務所、工場） クールビズ・ウォームビズの推奨	変動時間制導入による 省エネ・省資源の推進
2. 1化石燃料のCO <sub>2</sub> 排出量の削減	現在の省エネの取組みを周知徹底していく。	
3. 1全CO <sub>2</sub> 排出量	工場屋根に遮熱塗料塗布を行い 継続的な暑さ対策を取り入れた。	遮熱塗料塗布、オーニング（日よけ）を設置により作業効率も大幅に上がった。継続。
3. 2全CO <sub>2</sub> 排出量／ 百万円当たり		
年度の売上		
4. 水使用量の削減	水道事業の案件が増え使用量の増加が見込まれるが日々の生活で節水意識を持つ。	自動タイマー散水システムを必要な時に使用する。 従業員みんなで日々の節水意識を持つ。
5. 1産業廃棄物の削減 （木くず、混合産廃）	入荷品の簡易梱包依頼 木製パレットの納入業者引取依頼 パレットや梱包材の再利用	廃棄物分類一覧を掲示し 適正な廃棄を各自意識する。
5. 2一般廃棄物の削減 可燃ごみ（紙ごみ）	裏紙プリンターの増設。両面印刷機能活用。	過剰な梱包やリサイクル紙の再利用。（汚れの無い綺麗な紙類は梱包材として再利用）
6. 1事業活動での環境配慮 （納入金額 百万円）		
6. 2事業活動での環境配慮 研究開発・実証研究の 完了件数	机上のシュミレーションと実験による実証を組み合わせる研究開発を推進する。	耐震・防災に関する開発を継続。
6. 3 事業活動での環境配慮 改善提案件数	月一人1件の目標設定を制定。	日々業務の時短・効率につながる改善提案を見つける意識を持つ。
7. グリーン購入 環境配慮製品購入品目数	エコ商品の推奨	環境配慮製品の積極的購入継続。
8. 化学物質の管理 社内規定に従い実施	規定遵守	規定遵守
9. 自然共生活動 ビオトープ等維持	引き続き新たな生物の飛来、定着を目指す。	生物が定着しやすい植物の補植。 ビオトープのさらなる進化を目指す。

## 7 自然共生活動（生態系保存）

### □ビオトープ

2007年の当地への移転以来、当社の癒しスポットでもあるビオトープ。

2020年、地元・けいはんな記念公園の山口所長監修のもと、約1年をかけて大改修を行うことといたしました。大改修の一環として老朽化していた池にかかる橋を社内にてリメイクしました。これで子どもたちに安全に遊んでもらうことができます。また、水質改善が進み生き物の生態系維持も継続しております。



< 作業中の様子 >



< 修繕後 >



< タマムシが好きな桜の木の設置 >

### ① 生態系維持のための「残存調整草刈り」→継続

植栽管理については生物多様性に配慮して草丈を高く刈り残す、刈り草を樹木の周辺に積むなど日常的な維持管理に加えて生き物を呼び集め、定着を促進する工夫を行いました。

この方法を採用することで、生息場所を作り防草・乾燥を防ぐマルチング効果を生み、有機物を持ち出さずに土壌改良に寄与するなどの効果があります。

8月に行った生態調査では植物は16種類、昆虫は21種類（内、2種は京都府RDB記載種）の生態を確認することができました。

### ② 昆虫類の飛来・定着を狙った「補植実験・土壌改良」→継続

ビオトープでみられる生物調査を行っていただき飛来・定着する昆虫類（特にタマムシとアゲハの仲間）を狙った植物の補植、水質浄化及び水生生物の生息環境向上をねらった水辺の植物の補植、鯉の移動を行いました。また土壌の含水量を改善するために池の側面を中心に防水シートに穴をあける作業を行いました。それに加え給水頻度を増加することでナミアゲハの飛来が確認され水の濁りが一定程度改善されました。

### □環境整備

毎週水曜日の朝礼後は全社員での環境整備 DAY です。

屋上やビオトープ、会社周辺の草ぬきや清掃などを行っています。



## □屋上緑化

「芝生以外は全て食べることができる菜園緑化」を目標に社内(主に総務部)で日々菜園の様子を見守っています。

四季折々の旬の野菜を栽培しており収穫した野菜は従業員で試食したり、夜ご飯のおかずをしたり…土がついた無農薬野菜はとても新鮮で美味しくいただいています。

また屋上緑化には、夏場は室温上昇を抑え又冬場は外に温度が逃げるのを防ぐ効果があり、冷暖房軽減などの省エネ効果があります。



6月梅収穫(梅シロップ作成)



4月苺の収穫



10月柿, 栗の収穫

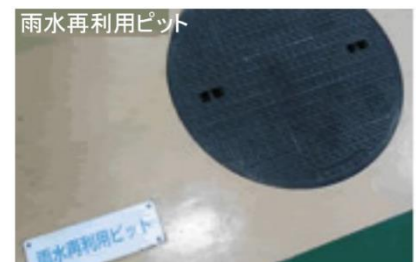
## □雨水再利用

屋上に振った雨は配管を通じ、雨水貯留槽に集められます。

このA棟屋根の雨水を受ける面積は合計 872.58 m<sup>2</sup>。

この地域の年間平均降水量は 1 m<sup>2</sup>あたり、約 1,476mm。

1年間で、872.58 m<sup>2</sup> x 1476mm = 128,798,56 m<sup>3</sup>の雨がふると推測されます。(1.5リットル 約 86,000本)



## □太陽光発電

2007年より、本社屋上に10kWのソーラー発電システムを導入し、主として事務所の使用電力相当を発電しています。

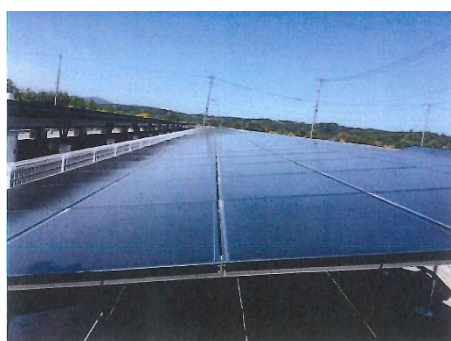
「年間約 11,500kWh」



2016年2月より、広島県竹原市にて、発電事業に参画(クリーンエネルギーの売電事業)。敷地面積 1572m<sup>2</sup> 45.9kW

のソーラー発電システムを保有しています。

「年間約 171,800kWh」



## □SDGs 宣言

2015年9月の国連サミットで採択された「SDGs宣言」。

国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

2020年当社でも「SDGs宣言」しこれまでの会社の取り組みを軸に持続的社会的な実現に向けて、微力ながら貢献できればと考え、活動を推進して参ります。

今年度は、追加で社内でSDGsに関する12の取組を行いました。



## 8 環境関連法規等の遵守評価結果、違反・訴訟の有無

### 8.1 適用環境関連法規等及び遵守評価

主な適用法規	主たる管理	評価
消防法	防火、消火設備管理	適合
労働安全衛生法	SDSの取得と周知	適合
	設備の届出・有資格者	適合
PRTR法	SDSの取得と周知	適合
大阪府環境条例 (自動車NOx・PM法)	大阪府流入規制遵守	適合
廃棄物処理法	廃棄物保管・処理(委託管理)	適合
フロン排出抑制法	簡易点検	適合

### 8.2 違反・訴訟について

環境関連法規への違反や訴訟はありません。関係当局からの違反等の指摘はありません。

## 9 代表者による全体の評価と見直し・指示結果

(実施日 2022年06月23日)

1. 2021年度については、鋼材・すべての消耗品関係、電力・ガソリン等のあらゆる値上げが止まらず、利益を圧縮する可能性があります。  
しかし、見積時にしっかりと反映ができたことや、製造本部の生産性向上(一人当たり1時間の生産高は基準年度より11%のアップ)により、売上、利益ともに基準年度(2020年度)を上回る結果となりました。
2. 環境活動の結果について、電力、化石燃料の二酸化炭素排出係数は目標値158,407 Kg-CO<sub>2</sub>に対し実績値159,239 Kg-CO<sub>2</sub>で二酸化炭素排出量の削減は目標未達でしたが、概ね前年程度の結果でした。また、一般廃棄物、産業廃棄物の合計は目標値2,580kgに対し実績値2,520kgで排出量削減。売上増加の中、分別、再利用を徹底し、目標を達成できたことは評価できます。ただ、「課題とチャンス」と捉えている水道関連事業の売上が伸びず、昨年より減少という結果は残念です。  
もう1点は、改善提案の件数が大幅に減少しています。今までより質の高い改善にはなっているが、各々での改善意識が重要です。
3. 今年度については、環境経営方針の変更はありません。  
前年度には「SDGsへの取組推進」を追加しました。
4. 実施体制は、現状を維持致します。
5. SDGsについては、2020年2月に宣言を行い、自社での取組を講演や執筆を通して、社内外へ活動報告を行っております。2021年度には取組を追加(12の取組)し、継続的な活動をおこなっています。

### 総合評価 見直し・指示

「第二創業」に向けての準備が整いました。

今秋、「けいはんなサウストラボ 管路防災研究所」が竣工します。

日本で初めての「管路」に特化した研究所です。

そこに設置をする「大変位耐震試験機」ではφ2600 mm×6000 mmの実物サイズの配管変位耐震試験が実施可能です。

2021年度では水道関連事業の売上が伸びませんでした。2022年度はこの試験機の稼働、また特許申請中の新製品の販売拡大により売上増加を計画しています。

これらの試験には水道水を大量に使用します。

電気使用量についても増加します。

それぞれの目標の見直しが必要になります。

2022年度は、「現地事業」(現地工事、現地調査等)については積極的に受注していくこと。

引き続き研究開発を継続して、特許申請や、実用化を進める。

水道事業の躍進は必須。